

「光の道」構想に関する意見

意見提出元	個人
意見項目	意見内容
<p>1. 超高速ブロードバンド基盤の未整備エリア(約10%の世帯)における基盤整備の在り方についてどのように考えるか。</p>	<p>現在、未整備エリアにおける超高速ブロードバンド基盤整備方法としては光アクセス方式が主流ですが、光アクセス方式のみならず無線方式などが経済的に有利なエリアもあり、また、すでにインターネットが利用可能なCATVが導入されているエリアもあり、未整備エリアでは、これまでの経緯を含めて状況が異なります。さらに、最近では利用者によって、いろいろなニーズがあり利用形態も様々であるため、基盤整備の方法は、光アクセス方式だけではなく、WiMAXや今後携帯電話で展開されるLTEなど、地域や利用者が状況に応じて選択できる必要があると思います。</p> <p>また、未整備エリアは、需要の少ない不採算エリアであるため、基盤整備を実施する場合には、今後もIRU方式などの公設民営方式で実施すべきと考えます。</p>
<p>2. 超高速ブロードバンドの利用率(約30%)を向上させるためには、低廉な料金で利用可能となるように、事業者間の公正競争を一層活性化することが適切と考えられるが、NTTの組織形態の在り方も含め、この点についてどのように考えるか。</p>	<p>利用率を向上させるために最も必要なことは、全ての利用者が安心、安全で豊かな生活を営むうえで必要かつ便利なサービス提供の充実だと考えます。具体的には、電子行政、医療、福祉・介護、教育などの分野のサービスこそが利用者の拡大につながるものであり、官民連携で重点的に取組みを行うべきです。さらに、高齢者の多くは、パソコンやインターネットを利用したくても使えない人が多く、利用率が向上しない大きな要因となっています。高齢者や身体の不自由な方などでも簡単に利用できる簡易な端末やサービスなど、情報リテラシーの解消を図ることも利用率向上のためには重要な取組みだと考えます。</p> <p>料金の低廉化については、現在注目されているクラウドサービスにより各種サービスの提供料金の低廉化が可能となり、より一層の利用率向上が期待できます。また、設備を所有するNTTなどの通信事業者の経済化努力も必要であり、設備構築技術、保守技術の低コスト化や、経済的システムであるPON方式のように、光回線設備、ネットワーク設備、サービスの一体的な開発によって最適に実現できるものであるため、設備とサービスを一体とした体制による事業者間競争を基本として活性化すべきだと考えます。</p>